

第4回 公園のあり方協議会

日時：令和5年2月27日（月）

午後1時～4時

会場：本館西棟5階防災センター

1 開会

(1) 開会（公園緑地課 石本課長）

それでは、予定の時刻になりました。本日は大変お忙しい中、委員の皆さんにはご出席を頂きまして、本当にありがとうございます。また、1時という昼の早い時間にご出席頂きまして、本当にありがとうございます。本日の進行を務めます公園緑地課の石本でございます。よろしくお願いいたします。

では、座って進行を務めさせていただきます。公園のあり方協議会も令和4年と5年度の2ヶ年ということをお願いさせて頂き、本日は第4回目ということで折り返し地点ということになりました。委員の皆様にはどうか引き続きよろしくお願いいたしますと思います。本日の出席の委員は7名でございます。松本委員、落合委員、武部委員、石川委員の4名がご欠席です。

お手元の資料の確認をさせていただきます。次第が1枚、それから、第4回公園のあり方協議会という資料、それから、前回、第3回の際に島根大学の学生さんが発表したものの資料が整ったということで、松江北公園をモチーフに提案したものを委員の皆さんにも参考に見て頂きたいということでお配りいたしました。それからもう1つ「てくてくさんぽ」というのが県立大学の学生さんが松江市内の公園周辺を歩こうということで作って頂いたものでございまして、これも参考になるなと思いますので、委員の皆さんにはまた是非ご覧いただきたいなと思います。

それでは、本日は議事に入る前に、全国の広場づくりに関わっておられる広場ニストの山下裕子さんに本日来て頂いておりまして、ご講演を頂こうと思っております。賑わいづくりの公園にも関係いたしますし、広場づくりの事例や地域に愛される広場、公園のあり方など貴重な話が聞けるのではないかと考えております。委員の皆様には参考にして頂けたらと思います。

山下さんの経歴をご紹介させていただきます。山下裕子さんは2013年より全国まちなか広場研究会の理事となっておられまして、2014年からはまちなか広場研究所として活動を開始されまして、神戸や明石そして久留米をはじめとする地域のまちなかの広場づくりに関わっておられます。打合せだけでは感じることでできない地域らしさの奥まで潜入することを心がけておられまして、よそ者だから感じることでできる地域のポテンシャルを発掘しながら、地域の伴走役を目指して活動しておられます。松江市の

方では2021年に公共空間の利活用に向けた研究会の講演を頂きました。また、白潟地域周辺に関するまちづくりシンポジウムにもコーディネーターとしてご活躍いただきました。

本日は、賑わえる公園や広場にするには、楽しいまちなか広場にするにはということでご講演を頂こうと思っております。それでは、山下さんよろしくお願ひ致します。

<講演：賑わいある広場・公園にするには（広場ニスト 山下裕子氏）>

2 議題

- (1) 主要な公園の将来像について
- (2) モデル地区【川津・持田・朝酌】の将来像について
- (3) あり方検討の全体スケジュール案

○進 行：小林委員長

○資料説明：石倉公園整備係長

（公園緑地課 石本課長）

それでは時間になりましたので、議題に入りたいと思います。前回の協議会同様、本日も公開という形にさせていただきます。本日の議事の内容、ご意見を市のホームページで公開させていただきたいと思っております。山下さんにも会の中で何かアドバイスが頂ける機会があるかもしれませんので、よろしくお願ひ致します。

それから委員の皆さんの前に、マイクがございます。話されるときには、銀色の四角い所を押してから話されるとマイクが入ります。終わったらもう一度押すとマイクが切れますのでよろしくお願ひします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。要綱の第5条2項に基づきまして、これからの進行は小林委員長にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

（小林委員長）

よろしくお願ひ致します。本日、山下さんから講演をいただきまして、せっかくですので委員の皆さんから質疑の時間を設けたいと思ひます。

それでは、はじめに私の方から質問させていただければと思ひます。

私達も公園のことを色々やっていて、どうやったら人が集まる場所となるのかを考えており、非常に悩んでいるところです。お話の中で、既にある商店街であるとか、くつろげる空間をプラスすることで公園に関連づければいいというお話だったのではないかとと思ひます。公共交通など考えていなかったのが非常に印象に残るお話でした。色々な事例をご紹介頂き、ものを作るというよりも、その場所に普遍性を持たせる、色んなことに使える自由な空間、そこにどういふソフトを入れていくかが大切だよというお話だったと思ひます。これ

まではものを作るということを前提に話を進めてきましたが、今回ご紹介いただいた取り組みの中では何かを作ったり、何かを壊したりということはされているのでしょうか。

(山下氏)

ありがとうございます。そういう意味では、富山の広場は再開発事業でございまして 16 億円かけて屋根をかけるということをやっています。ただ、先程申し上げたとおり、松江より色々なものが降ってくると思っておりまして、逆にいうと屋根がないと始められなかったと思っております。そういう意味では、最近は大きな屋根をかけるというのは、現実的にあまりお勧めされておりません。半世紀単位や一世紀単位で物事を変えて考えていかないといけない、あるいは、負の遺産は残さない方が良いと言われている時代ですので、今、屋根をかけるというのは、あまりお勧めではないかなと個人的には思っております。

その時に何が大事になってくるかということ、軒先というか、建物と隣接しているとか、隣接していなかったとしても近くの建物との一体的なマネジメントかなと思っております。なおかつ、近くの一体的なマネジメントができる建物の一部分がピロティ的に雨をしのげる状態、広場では公園と同じ面積でなくても雨風がしのげるような逃げ場が近くにあれば、なおかつ、雨で急に使えなくなったとしてもそこが一杯で埋まってしまっているのではなくて、そこが使える状態で空けてあるということが大事かなと思います。皆さん野外コンサートとか何か野外の演目もご経験があると思いますが、演者以外の方は濡れてもあまり問題なくて、むしろぶ濡れになったフェスとか思い出になったりします。ただ、物や商品、機材とかというのは濡れたらいけないので、そういったものの逃げ場があって、それが倉庫的な意味でなく、そこに置いたところで多少販売行為ができる状態ですね。私のお勧めは、全体の 3 分の 1 ぐらいがブース的な出店者の面積で、3 分の 2 ぐらいを人が居られる場所、要するに人というのは食べられる場所を認知してから買いに行っている。食べられる場所がなかったら、そのものはいくら美味しくても売り上げは下がっています。食べられる場所として、すぐ近くにベンチ 1 つでもあったら買うし、ベンチが空いてなかったら時間があれば待つし、空いてなかったらまたにしようかと言って通り過ぎられるのではないかと思います。話がずれてきて恐縮ですが、とにかく、近くにある安全な雨がよけられる場所との一体的な運用というものが大事で、新しく作るべきではないかなと思います。

(小林委員長)

ありがとうございます。人がくつろげる場所をしっかりと確保しておいて、最低限の仕組みを整理するのが理想的ということですね。

(山下氏)

はい、そうですね。

(小林委員長)

遊具についてはどうでしょうか。

(山下氏)

遊具についても新しく作るというよりも、ニュースポーツと言われているモルックとかペタンク、ポッチャなど、遊具無しで遊んだり体験できるスポーツもあります。今の若い方は国際感覚もあるし、コミュニケーションがいかに社会的に必要かということがわかってらっしゃるので、モルックなんかは、体力も体型も関係なくて片手でできるスポーツなんです。極端な言い方をすれば、持てれば大丈夫ですね。指が3本しかなくても、持てれば大丈夫なんです。ですので、そういった色々な人が同じフィールドに立てるということでコミュニケーションが成り立つので、多様な人にとって参加しやすいことをも含めて価値として若い方が好んでいると想定しています。そんなことは若い人も説明しないですけど、感性のいい若い人ほど、モルックのようなスポーツを街の真ん中で皆さんとできる状態を作りたいと、色々な街で言われます。スケボーも実はコミュニケーションなんです。オリンピック種目にもなっただけで閲覧になられた方も多いと思いますが、彼らは勝ち負けよりも、「おお、すごい技」「かっこよかったよ」と言って終わった後やってらっしゃいますよね。言葉をなくしてもスケボーを通してコミュニケーションをしているんですね。そのコミュニケーションを望んでスケボーをしているので、そういう価値観をどれだけ街側が享受していけるかということで、若い人が望むかどうか、望まれる街になるかどうかというのが、判断されていく時代になったかなと感じております。話が逸れてきてしまってすみません。

(小林委員長)

遊具に関しても、何か作るのではなくて、モルックやったりスケボーやったり色々できそうですね。

(山下氏)

そうです、本当に色々なことを受け入れられる状態ですね。

(小林委員長)

まさに、多様性ですね。

(山下氏)

多様性、本当にそうですね。固定の遊具よりも何でも出来るような状態で、それぞれ道具を持ち寄って、来たときよりも美しくすれば、次の方も気持ちよく使える状態をお互いに維持していきましょうというマインドが育てば良いと思います。何もないから何もできないではなく、何もないから何でもできるというのは遊ぶようになるとわかるようになります。

何もないから遊ばせんというのは、遊んでないからだと思うんですよね。まずは遊んでいただいて、縄跳びも持ってきたらできますし。

(小林委員長)

そのはじめのきっかけ作りが、難しいですね。

(山下氏)

いや難しくないんです。やりたい人がやりたいことをまずやるだけです。どの街でも立地とかそういったことではなく、「ここを使いたい人この指とまれ方式」というのですが、ここを使いたい人集まってくださいという場を開かれて、1人でも来られたらもうできます。1人の人がやりたいことを、皆さんご承知かと思いますが、フォロワーが大事な時代と言われていまして、何かをしたいという人よりもその人を盛り上げようというフォロワーが大事です。フォロワーは皆さんできるんです。私もできるので。ですので、きっと1人はいますので、その1人がやりたい気持ちを皆で盛り立てていき、それをやってみて、あとはやり方は色々あると思いますので、時間帯や規模感は近場におられるご近所の方にとっての普段の状態が良いと思います。かといってその1人の声を大きく聞きすぎでは何もできなくなってしまうので、そこに社会性といいますか、このエリアとして、この街として、松江という単位ではなく、もう少し小さな単位が良いですね。具体的にいいますと、たとえば、パリが15分都市という構想をいっています。「15分ぐらいで歩いて行ける圏内を1エリアとして考えてみましょう」といっています。ステイホームになったとしても、自分の自宅や会社、自分がよくいる場所の徒歩15分圏内に自分の暮らしを豊かにしてくれるものがあれば、社会生活は成り立ちますので、15分圏内に自分に用がない時に行きたい場所が1つでもあると、結構幸せだと思います。そこに友達もできれば、尚のこといいですけども。

(小林委員長委員)

はじめに集まれってというのが上手くできれば、それでどんどん子どもが遊んでいくということですか。

(山下氏)

そうですね。ちなみに人が1人いるということがとにかく大事だと思っています。私はそういう意味では「サクラ」とよく言います。グランドプラザでは、スタッフ自身が誰もいないので、最初に座って「サクラ」になっていたのは私自身です。皆さんが座って待つのも良いと思いますよ。この会議もその都度、場所を変えてやればいいですよ。

(小林委員長)

この会議を公園でやるのも良いかもしれませぬ。

(山下氏)

はい、この会議を公園でやったらいいですよ。会議室でやるのではなく、誰もが見えるところでやるのも良いと思います。でも、季節のいい時だけですよ。気持ちの良い時に、気持ちの良い場所で気持ちよく使えばいいんじゃないですかね。夕方になったら缶ビールを持って来てもいいんじゃないですかね。帰りは公共交通で帰って頂ければ、喜ばしいのではないのでしょうか。

(小林委員長)

山下さんも色々と自由に動かれていたようなんですけれども、管理している人たちは民間の方ですか。

(山下氏)

いいえ。紹介した富山市、豊田市どちらのも市役所が管理する場合の事例ですね。市役所の方がどこまでを認めるかということはありません。極論を言いますと、法律を犯すようなことは駄目なんですけれども、世の中にはグレーなことが多く存在しています。良いか悪いか、よくわからないようなことが多いんです。良いか悪いかよくわからないものを、どこまでを享受できるかですよね。そのために、いきなり文書化するのではなく、モルック1つだとしても、例えば、15チーム同時大会なのか、1チームずつを皆で見ながらやるのかとか、やり方は色々あるんですよ。ですので、期間を決めて実証実験などを元にお試しをするということも3年ぐらいするのも良いかもしれません。グレーなことの中でも、どんなことであれば、「皆にとってはグレーだけど、うちではやってみよう」「どんどんやっていいよ」「できます」「看板に書こうよみたいな」というようなことが見えてくるかもしれません。また、「ここではこういうことをやって良いですよ」「こういうことをやって欲しいと思っています」というメッセージをするのも良いですね。こういったことを松江の皆さんも丁寧に作られると良いのではないのでしょうか。

(小林委員長)

はい、ありがとうございます。私ばかり聞いていてもあれですので、委員の皆さんからのご意見ご感想ですとか、質問があればお願いいたします。

(村山委員)

色々な考える材料を与えて頂きました。頂くことが多すぎました。公園愛護団というところで、12年程前に住宅跡地を公園にさせていただいて管理をしております。お話の中で一番気になっているのが、仕掛けについてです。公園ができた当時から管理を続けていますが、私も歳を取り、今考えているのは次世代にどう受け渡していくかです。イベントをやったり、

教育の場などとしてPRを行ってきました。次に渡す時に、良い状態をつないでいくために、どういう仕掛けをしていくかというのが、すごく気になりました。上手くいっている間は、良いのですが、そうでない時の仕掛けとして、何か参考にできることはないかと思って聞いておりました。

また、「たくさんの人たちが集まる公園」といっても色々なケースがあります。地域によっては100人ぐらいがたくさんなのか、1万人ぐらいがたくさんなのか、色々ありますよね。私たちが管理している公園は、良い状態の時には、多くて20~30人、少ない時でも2~3人来るような状態が続きます。

公園を良い状態で保つために、どのように維持管理をするべきかをお伺いしたいなと思います。

(山下氏)

はい、ありがとうございます。閉じないことかが大事かなと思います。良い状態と誰かが言った時点で、何かを閉じかけているのだと思いますので、誰かのものになってはいけないんですよね。本当に難しいのですが、富山の広場の時も出勤日以外も出勤するぐらい一生懸命で熱心にやりましたけれども、私のものになってはいけないんですね。規模が小さくなってしまうとそういうことは起きやすくなってしまいうんですけれど、その際に、「誰にとっても」という気持ちをどう維持するのが重要になるのかなと思っております。そういう意味では、私の友人が色々な工夫をしている事例があります。何かをするときに、小さい看板を置いて、そこには「どなたでもどうぞ」と書いてみる。気持ちを相手に伝えることからやってみたり、少しでもこちらを気にかけている人がいれば、こちらから声をかけてみることはできると思います。

また、広場でも公園でも貸しきれないということはどう意識するかが大切だと思っ
ていまして、貸し切ることを望む人たちは立派なホールや会議室を借りた方がいいと思います。「邂逅」という言葉がありますけれども、巡り合わせを楽しむことを共有していくことに尽きると思います。それが簡単ではないということもお分かりだと思いますし、私も認識しています。ただ、答えはないんですけれど、先ほどご紹介したカジュアルワイン会もすぐ閉じていってしまうんですよ。顔見知りだけが来て、会話するだけでは、簡単に閉じることになると思います。顔見知りでないと入れない雰囲気があるので、オープンな場でやっていたとしても入りにくいんですよね。私は常日頃、「初めてくる人を誘ってきてくださいね」と口酸っぱく言い続けています。新しい人を受け入れるということは、相当気をつけないといけません。当たり前ですけど、いつものメンバーの方と行う方が楽ですよ。自分も含めてですが、誰もが楽をしたいと考えます。でも、新しい人が来るということが都市の価値なので、そういったことを誰かが意識する必要があります。ただ、1人だけが意識し続けるのは難しいです。そういった意味では、富山の広場は20万円という決して安くはない値段設定なのですが、逆に言うと1人では始めにくいと言い換えることができます。そこ

で行っているイベントのうち、20件から30件程度は行政が主催するイベントで、100件程度は市民が主体になって開催するイベントです。要するに、年に1回イベントを開催して、大きな場所で仲間と何かするというところに喜びを得た人たちが16年の間に130チームあるということです。1人で始めるには少し高い値段設定であったからこそ、「旧知の仲間」「フォロワーも集めて仲間」と始めることになったのだと思います。そうすると、1人で何かを頑張るといふことは、なかなか続きませんよね。皆さんもご経験されたことがあるかと思いますが、だいたい5年も続かざないことが多いと思います。ただ、仲間や複数のメンバーで行うことによって、誰かの心が折れかけても仲間がいれば助けてもらえますよね。実は、あの広場で取り組んでいる人の中で、一番収益をあげて、使用料を払っている方は、一般の主婦の方です。16年間、年に2回「ここマルシェ」というマーケットをやり続けています。今では、車のディーラーさんからマーケットの依頼が来るぐらいのプロフェッショナルマーケットナーになっています。彼女に話を聞いてみると、仲間がいたから続いたと言っています。「1人では始められない料金を設定する」ということも1つの方法ですし、先ほどご説明した「広場や公園の使い方講座」を開かれた場でやることも大事だと思います。例えば、八戸の広場で使い方の説明会を行った際の話です。説明会に来ている人は3人だけですが、広場を利用する人が周りにいるような状況で最初は始まります。説明を行う中で、「この広場の天井高は15メートルです」と言うと、説明会に参加している3人だけでなく、その場にいる全員が天井を見ます。要するに開かれた場でやっていたら、説明会とは関係ないような人たちでさえも聞くことになります。「その場所をどういう風に思っているか」「どういう風に大切に使いたいか」「こういう使い方をしたい」と自然に考え、頭の中に擦り込まれていくことになると思います。パブリックスペースでしか、パブリックマインドは醸成されないと。先ほど紹介した広場研究会を通じて全国55箇所の広場運営者と接点を持っています。そこで、大企業の営業課から事業目的で来たような方々も最初は営業らしい感じで来られて、費用対効果の話など完全に事業者の視点からの話をされます。しかし、時間が経つにつれて、公園や広場を利用する、おばあちゃんやお子さんについての話をされるようになります。このような変化をみると、自然と「みんなにとってこの場所はどうか」ということを考え、パブリックマインドが醸成されるものだと感じました。それについては、習うことではなく自然と生まれるものなのかなと思うようになりました。

最後になりますが、人が集まったり、何かできる機会を閉じずに、定期的に作り続けるかということが大切になると。米子市さんとも関わりがありますが、そこでは、「ぐるぐるかいけ」を開催しています。最初に道具や屋台を作り、その後、屋台を使って空いている場を「自分の好きな使い方」「自分で使いたい場所を使ってみよう」というようなことを年間5回、2日間ずつやろうと言っているところです。そこでは、所有者さんに「焚火の番人」をしてもらっています。その場所に居るための理由づくりとして、焚火の番をする役割を担ってもらっています。当然、人件費の話がでてきますが、費用のことを考えすぎると、途端に色んなことが破綻することも多くなります。皆生では、費用のことを考えすぎに、ま

ずはやってみようと思っているところです。

(小林委員長)

新しい人を入れ続けるのは難しいことではありますが、続けて行く上では、大切なことで、それが長続きするコツということになるんですね。ありがとうございます。

他にどなたかご質問はございませんか。

(加瀬委員)

松江市で公園を使って社会実験をしている加瀬と申します。今日はありがとうございます。お話を聞いていて、自分のことと重ねて、色々なことを考えていました。日本一の車社会である上に松江より雨が多く降る街、富山で松江よりも色々なイベントや活用、取り組みが既に行われていると知って、少しショックを受けました。今、屋外で公園を使って人を集めることをしています。先ほど、屋根をかけるという話がありました。実際、1年少し社会実験をやる中で、雨が降るとできないことが非常に多く課題に感じています。富山市と松江市を比べると、人口は松江市が少なく、面積は富山市の方が広いことを知りました。街の規模などを踏まえると、松江市は島根県というくくりで隣の市協力、連携して色々やらないといけないのかなと思いました。

具体的な話をすると、屋根かけるとお金がかかるということや施設の老朽化など色々考えることがあると思います。実際に松江市で行う際には、屋根をかける方が良いのか、雨があってもできるようなことを考えた方が良いのか。持続可能ということで考えると、どちらを目指していけばいいのか。人口と面積の兼ね合いからもっと勉強していかないといけないとも思いますし、そのあたりについて教えていただきたいです。

(山下さん)

ありがとうございます。現場の人間として、共感していただける部分があったのでしたら良かったです。

富山は人口が約40万人の都市ですが、金沢と同じエリアと思って100万人単位で考えた方がよいのではと言われるくらいなので、人口規模はある程度必要だと思います。ここ数年のステイホーム期間において、人口規模に関係なく面白さを作り出せるということは皆さん実感していると思います。豊かさはそこには比例していないと思います。

山陰地方でいうと、市長同士も色々な活動を共にされていらっしゃるように、私は米子市さんや境港市さんも含めて、水辺空間の歴史的背景から考えたら同じエリアですので、仲間として連携、協力してもらえれば良いなと思っています。

最近、松江の方の中で1番お話をさせていただいているのが地域おこし協力隊のみなさんです。その方々に話題を提供するお役目をここ数年させていただいています。地域おこし協力隊の方なので、皆さん県外からやってきておられるので、言い換えるならば、「松江で何

かをやろうと思っている人たち」です。お話をする中で、広報に関して松江は独特なんだなと感じました。富山は山の中の天気と言われるくらいで、弁当忘れても傘忘れるなどと言われるくらい変わりやすい気候で、松江市さんも同じだと思っています。だからこそ、イベントに行く約束はほとんど出来ないのかなと思います。仮に行くといっても来なかったり、行かないといっても来たり、気分とか天候など状況によって、その瞬間、瞬間で判断されているという印象を得ました。私はもっと即時性があっても良いのではないかと思いました。それに向いているのはツイッターなどかなと思います。ツイッターなどでは、電車の遅延状況をリアルタイムで共有しています。目印として、開催日は決めていて、「天気が良いので開催します」「雨が降ってきたからもう少し後から開催します」など、いつ何をやりますという情報のみを発信していると思います。ただ、実際はイレギュラーな情報ほど欲しいですね。私の話になりますが、先ほどランチ難民になりかけていました。私が行こうと思ったお店に入ろうとしたら店が開いていませんでした。昼は営業していない状態だったようですが、その情報は SNS のどこにも出ていませんでした。

つまり、今の時代、時間はできてしまっているのです。どういうことかと言うと、東京都内では、横断歩道が青信号になっても渡らない人がいるのです。急ぐ必要が無くなったということだと思います。昔だったら、「10時から16時までの6時間」と時間指定がされていたものが、今では、「10時から16時くらいまでいるよ、できるよ」「天気良ければできますよ」「雨が降ってきたら今日は閉店します」などです。その日の売上だけでイベントの成功を判断されがちですが、実は、オープンエアでされているイベントは広報です。この意味を出店者の方に理解していただくのは大変なのは分かっていますが、ただ、売上が良かったから良いイベントだったというだけでなく、広報活動であって皆にとって大事な場所で出店するということが信頼につながるということです。時間ができた今の時代における SNS を始めとした情報共有するツールをもっと使うべきだと思います。天候が揺らいでいる時、例えば、雨上がりだと虹が出ていると幸せな気持ちになる人も多いと思います。あえて、楽しむ道具にしてしまうというのも良いと思います。

お店の出店する際にも、晴れの日のたくさん人が来ることを想定して、たくさんの商品やお弁当を準備するのではなく、少しで良いんです。余れば、仲間同士で食べきれるような量で良いと思います。松江は小さなお店が増えているように感じます。多くの売上を上げなくても良いような価値観を持つ人がもっと増えれば良いなと思っています。他の街ではお店を出店する際に賃料が高いことが多いです。松江は、地元オーナーさんがいることも多いこともあって、小さな店でも維持できていることは素晴らしいと思います。

(小林委員長)

ありがとうございます。

それでは、議事の方に入らせて頂こうと思います。本日の議題についてですが、1つ目は主要な公園の将来像について、2つ目はモデル地区の将来像について、3つ目はあり方検討

の全体スケジュール案ということで、資料をいただいておりますので、事務局から説明をお願いいたします。

(石倉公園整備係長)

公園緑地課の石倉でございます。

それでは、議題の1つ目、主要な公園の将来像について説明させていただきます。まずは資料2ページをご覧ください。こちらが市内全域の図面の中に、松江市内の主要な公園をプロットしたものです。プロットしている主要な公園については、利用対象者が市内全域から来る公園、目的をもって来られる公園として総合運動公園等を示しております。具体的には、総合運動公園、北公園、城山公園、楽山公園、秋鹿湖畔公園、松江湖畔公園、松江市公園墓地などを表示しています。また、野波海浜公園は海水浴客が訪れるスポットになっているため表示しております。

3ページ、4ページをご覧くださいと航空写真が載っております。なお、3ページの111番、秋鹿湖畔公園はフォーゲルパークのことでございますので、ご承知ください。

次に、5ページをご覧ください。Webアンケートの結果でございます。回答数が最も多かったのは、北公園でございました。5ページ下ほどから6ページにわたって、公園でやってみたいこと、こうして欲しいなど、いただいたご意見、ご要望について記載しております。全体的に公園を利用したい人の前向きな意見が多くなっています。また、「トイレを綺麗にしてください」「遊具をきちんと修理して下さい」「草刈りや樹木の剪定をしてください」といったものや、「キャンプをしてみたい」「カフェやドッグランが欲しい」などのご要望がありました。

これを受けて、公園づくりの方向性について7ページをご覧ください。松江市の公園を眺める公園から利用する公園へという思いが、アンケートの回答結果から読み取れるように感じます。先ほどの山下さんの講演でもありましたが、「使いたい」「行ってみたい」と思うような公園にしていく必要があるのではないかと考えております。具体的には、配置から見直しが必要であるように思います。鉄棒、滑り台、砂場が置いてあるような画一的な公園整備からの方針変更も必要ではないか。もっと公園を利用していただくには、どのような整備が必要なのか、こういったことを考えて、利用を増やすための視点を含めて考えていただきたいと思っております。

続きまして、8ページをご覧ください。方針案として、2つ記載しております。1つ目として、「主要な公園は、既存の公園を魅力ある公園にしていく」、2つ目として、「主要な公園の魅力化には、公園を利用する目的別に個性を引き出す」の2つを方針の案として提示させていただいております。今回抽出した主要な22公園のうち、具体的な整備に着手しておりますが5つの公園でございます。まず、総合運動公園につきましては、正式決定はまだされていませんが、10年以内に国体開催の計画がございまして、令和2年度から年次的に改修工事を実施しております。宍道総合公園につきましては、加瀬委員が携わっていただい

ておりまして、令和 3 年度より社会実験を実施中でございます。松江湖畔公園につきましても、現在改修工事中でございます。資料の中で空欄となっている公園についてはまだ具体的な整備には着手しておりません。

本日は、委員の皆様からこの公園を整備すべきだ等のご意見を頂きたいと思っております。1 つ目の議題については以上でございます。

(小林委員長)

主要な公園の将来像ということで、全体的な整備の方針のお話を頂きましたが、質問がしづらいかもしれませんので、具体的なモデル地区の方まで話を進めて頂いた方がいいかもしれませんね。続けて、議事の 2 つ目の説明を事務局よりお願いできますでしょうか。

(石倉公園整備係長)

それでは、9 ページをご覧ください。この地区内の公園の配置状況を地図上で表現しています。モデル地区としている、川津・持田・朝酌地区内には、主要な公園として北公園、楽山公園、菅田公園がございます。地図の中、点線で囲んでいるエリアについては多くの公園が集まっているエリアとなっています。

10 ページ、11 ページをご覧ください。地区内 52 箇所の公園を面積の多いものから順番に並べております。公園の種別や設備、駐車場の有無などについて載せています。

12 ページから 14 ページは、ブランコや滑り台、スプリング遊具など、それぞれの機能がある公園を面積順に整理しております。

15 ページをご覧ください。人口分布と公園配置の状況でございます。この図から読み取れることですが、地区以外の人でも利用するような大きな公園は、市街地周辺に立地していることがわかります。具体的には、北公園、楽山公園、菅田公園の 3 つの公園がこれに該当します。また、比較的面積の大きな公園は、団地などの近くに立地していることと、比較的面積の小さな公園は市街地の中でも、比較的人口密度が高い場所に立地していることがわかります。

次に、16 ページでございます。子ども人口の分布と幼児施設、公園の配置状況です。第 3 回の協議会でも触れましたように、園外保育での利用を含め、14 才以下の人口密度が比較的高いところには、公園の近くに保育所、幼稚園、認定こども園が立地していることがわかります。具体的には、菅田公園、橋本街区公園、川口児童公園などがございます。

17 ページ、モデル地区の公園の Web アンケート調査結果についてです。モデル地区の公園の中で最も回答数が多いのは菅田公園の 39 件、次いで、北公園の 29 件となっていることがわかります。

18 ページから 20 ページにわたって、公園でやってみたいこと、こうして欲しいなど、ただいたご意見、ご要望について記載しております。先ほど説明しました主要な公園と同様に、もっと公園を利用したいといった前向きな意見が多いように読み取れます。また、「ト

イレ、遊具、駐車場の整備をしてほしい」「草刈りや樹木の剪定をしてほしい」「キャンプがしたい」「カフェやドッグランが欲しい」等の意見がありました。特に、草刈りをして欲しいという要望が多く、今後の課題と考えております。

次に、21 ページをご覧ください。ここまでで整理しました現状を踏まえまして、見えてきた課題を元に、今後の公園づくりの方向性案として5つの方針を示しております。1つめの方針としまして、「主要な公園は、対象を松江市民全体として機能を充実させる」、2つ目として、「周辺の教育機関などと連携したみんなの公園として機能を充実させる」、3つ目として、「身近な広場として適切に配置をしていく」、4つ目として、「必要な機能の分担、統合の視点で再配置を考えていく」、5つ目として、「小さな工夫で魅力をアップする」の5つの案を考えているところです。5つめの方針について少し説明させていただきます。先日、市内の公園を見て回った時に、現場で思ったことがありました。小さな公園に行った際に、公園の真ん中に砂場があるのですが、砂が固まっていました。小さな子どもが遊んでいる訳でもないですし、猫の糞がある訳でもないです。穴が空いているようなところを埋めて広場にすれば、もっと活用の仕方があるのではないかと思いました。また、住宅街の中にある中規模程度の面積のある公園に行った際に、フェンスが低いと感じました。あと、1~2メートル高ければ子どもがボール遊びをすることができ、もっと賑わいのある公園になるのではないかと思いました。以上でございます。

(小林委員長)

ありがとうございます。

議題1 に関するところで、松江市全体の公園について、改めて情報を整理して頂きました。どこにどのような公園がどういう大きさで配置されているのかを載せています。また、アンケート結果について、どの年代のどういう方が、どういう目的で使っていることが多いかを整理していただいています。また、具体的な要望についても、文章で載せていますのでこの会議後で構いませんので、皆さんに読み込んで頂ければと思います。全体的な公園づくりの方向性としては、誰もが集い、楽しめる公園ということでしたが、このキーワードで具体的に話を進めることは難しいということで詳細な話は、議題2 でということになります。

議題2 では、松江市全体ではなくモデル地区を設定し、ある程度広いエリアから狭いエリアに絞り、その中で利活用を具体的に考えてみようという内容になっています。モデル地区は、川津、持田、朝酌の比較的中心市街地の場所に配置され、郊外の公園が持つ要素を含んだ公園にしたい思いのもと、細かい情報を整理して頂いているところです。遊具の有無や種別、周辺の人口分布、保育施設などの有無などについても提示しています。また、Webアンケートに出てきたキーワードも列挙してありますが、ボリュームもありますので、キーワードを確認して頂ければと思います。最後、21 ページのところでは、全体の方向性案をご提示頂いています。方針1 として、主要な公園となる大規模公園は市民全体、観光などを

はじめとした外から来るような人もターゲットに含まれるようなイメージかと思います。次に、周辺の公的機関、教育機関との連携を考えて整備をしていこうというのが2つ目の方針であげられています。方針の3、4、5は比較的規模の小さな公園についてです。我々も非常に悩んでいる所ではありますが、小さい公園をどうするかというところです。「身近な広場として整備する」「機能を分担して再配置を行う」「小さな工夫をすることで、魅力をアップしていく」とうようなことをイメージして方針案が考えられています。方針1、2が大きな公園、方針3、4、5が小さな公園についての方針です。これまでの議論を踏まえて改めて情報を整理して分かりやすく示して頂いたことになりましたが、今回の資料を見てでも良いですし、公園を視察して頂いたことを踏まえてでも構いませんので、何か新たにこの公園でこういうことをした方がいいよ、こういうものがあつた方がいいよ、というようなご意見がありましたらご発言頂ければと思います。いかがでしょうか。

また、参考資料として、公園緑地課さんと島根大学の学生が考える、「学生が考える北公園の活用像」をお配りしています。これは、4つの班に分かれて提案をしてもらったものをまとめたもので、先日、市長さん含めて松江市のトップの方々にはプレゼンをさせていただきました。非常に好評ではありましたが、こういったものの中から何か1つでも活用できるようなものがあれば良いなと思っているところです。学生の提案ですのでそのまま実現することは難しいですが、方向性の一部などとして使うことがあれば面白いかなと思っていますのでご参考までに見て頂けたらと思います。色々学生からの提案もあがっているのですが、具体的に何からどう進めることができるのかというのが気になっているところです。今日、お話を伺う中で、広場を使った社会実験を数年かけて行うことで、試しながら探ることができるのかなとも思いました。仮にこういったことを始めるとして、極端なことを言いますが、来年度から始めるようなことは可能なのでしょうか。

(公園緑地課 石本課長)

島根大学の方からの提案を受けまして、市としても、我々が考えていなかった新たな視点について伺うこともたくさんありました。参考にできそうな部分を採用し、取り入れていきたいという思いを持っております。来年度に向けてですが、委員の皆さんの意見を踏まえながら色々考えていきたいと思っています。1つ考えているものとして、「再整備カルテ」というものを作っていきたいと思っています。公園ごとの活用方法をきちんと整理していきたく思っております。まず、来年度には、主要な公園から整理していきたく思っています。その後、令和6年度あたりからは、具体的に1つか2つか分かりませんが整備を始めることができるような形を想定しております。どうしても実験が必要なことも出てくるかなと思っています。他県の事例を参考にしながら考えているところです。例えば、岐阜市では移動式の遊具を使った社会実験をやられたという情報もございます。他事例も含めて研究中の状況でございます。色々な視点から考えながら、公園の再整備、具体的な動きに向けて取り組んでいきたいと思っています。

(小林委員長)

来年度からすぐに動き出すということは難しいようですね。集まって自由に試ってみてもらおう位で良いような気もしますので、あまり先延ばしせずに、何かやれるということから始めることができれば良いかなと思っております。

(今井委員)

今、この議題にあっているかはわからないのですが、この公園でやってみたいこととか、こうして欲しいとかいう意見の中に、トイレの話がいくつか出ています。自分も子どもが小さいので、公園のトイレをよく使うのですが、トイレは無料でないといけないのでしょうか。例えば、有料化することで、トイレが綺麗に保たれるのであれば使いやすくして良いかなと思いました。以上です。

(小林委員長)

駅には有料のトイレがあるところもありますよね。確かに綺麗ですね。もし、その方が快適に使えて、利用者の満足度が上がるのであれば良いかもしれませんが、現在のトイレの整備方針はどのようになっているのでしょうか。

(村山委員)

公園にどのような機能が最低限必要かということから始めていけば良いと思います。トイレの料金についても使う人の意見などを踏まえながら決めれば良いかなと思います。

(小林委員長)

委員の皆さんには公園を回って頂いて整備が最優先と感じられている方も多いかと思います。最低限の機能をどこまで整えるかということですね。

村山委員に伺いますが、最低限必要だと思う機能はどのようなものをイメージされていますか。

(村山委員)

人が滞在できる、溜まることのできるようなものが必要だと思います。

(小林委員長)

人が溜まるというと、具体的にはベンチなどのイメージでしょうか。先ほど、移動式の遊具の話もありましたがそのようなものも考えられるかもしれませんね。

(村山委員)

そうですね。ベンチや移動式の遊具も良いと思います。必ずしも、特定された場所にこだわる必要はないと思います。

(小林委員長)

ベンチがあればどれだけ人が集まるのか、移動式の遊具を設けることで人が集まり、滞りやすくなるのかを社会実験などしてみても面白いかもしれませんね。

(村山委員)

そうですね。色々と可能性があると思います。そこで、課題も見えてくることもあると思います。芝生を植えたり、大きさの異なる土管を置く、土を持って滑り台にすると子どもは遊ぶと思います。物理的な話が多いかもしれませんが、仕掛けとしてイベントをすることで人も人は集まってくると思います。

(小林委員長)

公園にある最低限必要なものをまずおさえることですね。その後、整備のことを考えることになると思いますが、トイレについては、移動型は難しいので、整備して有料にする可能性も一つの選択肢ですね。

村山委員さんから発言があった、人が溜まる場所についてですが、必要だけどうしたら良いのか分からない。移動式の遊具ですとか、ベンチを使って1回社会実験をしながら最低限必要なものを1回確認してみるのが必要ではないかというご意見かと思います。今、議論を止めてしまう訳にはいかないので、今回の対象にしている対象エリアの中で、早い段階で始めることが必要かと思います。

(石倉公園整備係長)

トイレの整備につきましては、トイレの整備計画というものがござります。既存のトイレをA、B、Cの3段階で整備順位をランク付けして、公園の整備を進めています。また、遊具につきましても、配置計画があります。遊具の全体数は減らす方向なのですが、直すべきものは直す、更新するものは更新すると計画に基づいて取り組んでいます。また、最低限必要な機能というお話がありました。資料7ページの考え方のところに記載していますが、大きな公園では、配置バランスの視点、用途変換の視点、利用を増やす視点、中小の公園につきましても、隣の公園にトイレがあれば、必ずその公園にトイレが必要なのかというのもこの視点の中に入れていくところなんです。そういったところも含めて、この会議で方向性を決めていければと思っています。また、個別の内容につきましては、方向性にそって行政側で整備をしていかないといけないと思っています。

(公園緑地課 石本課長)

トイレのことについて、補足させていただきます。今井委員から発言いただきましたとおりトイレはとても大事なものです。例えば、観光地に訪れた際に、トイレが汚いととても印象が悪くなるという話をよく聞きます。トイレは非常に大事なものであり、我々も同じ認識をしております。松江市の中でも公園に限らず、観光地のトイレが約 160 箇所あります。今までは、色々な課がバラバラに整備をしていましたが、統一的に整備するために令和元年にトイレの整備計画を作りました。実際に令和 2 年度から着手しており、取り組みを進める上での視点として、観光客の多いところでは「洋式化にする」「オストメイトにする」「暖房便座にする」「消毒をきちんとする」などがあります。1 番最初に着手したのが、総合運動公園、城山公園です。この 2 つの公園では、ほとんど改修が終わっております。それから、岸公園や水辺の公園の整備をこれから進めていくことになっていきます。来年度は、北公園などを洋式化していく予定です。最近では和便器ではトイレができない子どもも多く、洋式化を進めていく方向にしております。また、公園の中に男女入り口が一緒になったトイレがまだたくさんあり、全体の公園のうち、約 3 割が該当します。男女ともに、使いづらい状況なので改善していきたいと思っています。今は中心部の公園から、充実度の高い A ランクとして整備を行っております。また、周辺部の公園についても地域ごとに 1 つは A ランクのトイレを設置する予定としています。なお、B ランクは男女別で多目的用のトイレ、C ランクは男女別の入り口のトイレを指します。エリアごとに市の中心部を A ランク、周辺部を B、C ランクというように、最低限の整備を進めていこうと進めているところです。また、委員の皆さまには、トイレの整備計画を配布させていただければと思います。

(小林委員)

ありがとうございます。トイレにつきましては、既に計画を作成し整備を進めていただいているということでした。

色々な話や事例を紹介いただき、現地を視察する中で、委員の皆さんの中にも理想とするような公園のイメージができつつあるのかなとも思います。私だったらこういう方向でこういう公園をつくるのが良いと思う。あるいは、委員の皆さんの今の公園に対する思いをお話していただきたいと思います。村山委員からお願いできますでしょうか。

(村山委員)

ありがとうございます。北公園は、対象として入っており、スサノオマジックの話も関係してくるのかなと思います。市長さんも気持ちが入っておられるようなので、色々取り組まれる方向だと思います。今がチャンスかなと思います。恐らく、建物の容積に変化が出てくるのではないかと想定をしています。そうすると、その周辺である駐車場や公園を周辺の街並みとどう滲ませるか、人が入りやすくするにはということを考えていかなければならないと思います。前回も話をさせていただきましたが、カフェ的なものが出てしまうと周

りと馴染まないのかなと思います。また、建物の容積が大きくなると威圧感が増し、周辺の日光や風の具合も変わってくるので、そういったことをある程度想定する必要があると思います。また、楽山公園とか末次公園など松江の街並みを見渡せるような構築物があっても良いと思います。時間と空間の話がたくさん出てきましたが、空間というのは時間によっては随分変化をしますので、それをどう織り込まれるのかが大切だと思います。個人的な思いだけではなく、そこに来られる人をイメージすることが必要です。また、もう一つ時間的な視点では、10年先に自分達の次の世代がどんな思いでいるのかということも織り込んでいきたいと思います。学生さんの提案は、若者の勢いを感じた作品でしたので、是非色々なものを実現させてあげたいな、協力したいなという気持ちで見させていただきました。長くなりました。ありがとうございました。

(小林委員)

ありがとうございます。スサノオマジックで利益を出して、公園でも利益を出そうかということで、最近盛んに議論されていますよね。大きい公園では商売をしてお金を稼ぎながら公園の維持に充てるとするのは、北公園に関してはできそうだなと思いました。

また、周辺の街並みのこともお話いただき、視覚的に周りを見渡せるということもそうですし、周辺で商売をやられている人たちも取り込んでいけたらということだと思います。駅のエリアも近いところですので、周辺に何があるかというのがというのも考えて計画を進めていけたら良いと感じました。

ちなみに、小さい公園については何かお考えのことはありますか。皆さんも考えられる際に、小さい公園をどうすれば良いのかということをお考えかと思います。

(村山委員)

小さい公園というのが、閉鎖空間になっては非常に困るかなと思います。私は、気持ちの休まる場所が公園だとイメージしていますが、そのためには来た人に何が提供できるかということを考えます。ベンチを必要とする方もいらっしゃるし、芝生で転がりたい方もいらっしゃるだろうし、公園のサイズで、過ごし方を決めないといけないと思います。公園ごとに何を準備してあげたら良いか、答えを出したいという気持ちでいます。

(小林委員)

確かに、小さい公園は、周辺住民の方が気持ちよく過ごせるための規模になっていますね。ありがとうございました。

(加瀬委員)

少し、思ったことがありまして、公園は不動産として扱われることもあると思います。今日お話頂いた中で、「コト」がないなというのをすごく思いました。「コト」がないと、どの

ような人が来るか分からないので、そうすると、モノかヒトか分からないという流れになってしまおうと思います。公園で何かやったらいいじゃないかということで、この会議を次回どこかの公園を使ってやってみるとする。公園で会議をすることを SNS で発信すれば、「公園で会議すること」が多くの人に発信、共有してタイムリーに流していくような動きが必要なのかなと思います。あと、小さい公園については、「皆さんだったらどう使われますか」と聞いてみても良いかもしれません。用途としては、緑地か、それとも人を呼んで活性化させるべき場所なのかということになると思います。前提として、このような話が出ているということは、緑地の数が足りているということがきっかけとなり始まっていると思います。例えば、「公園でイベントをして、100 人呼んでみよう」と何か動くことが大切だと思います。小さい公園だったら 30 人くらい、中規模だったら 100 人、大規模だったら 500 人呼んでみると、「トイレは 1 つでは足りないよね」「女性が多いので、女性用トイレがもっと必要だよね」とか自然と必要なことは見えてくると思います。

仮にですが、公園で会議をやってみて情報を発信するとします。その情報をきっかけに、「公園でこんな事できるんですけど、会社さんで使ってみませんか」という問いかけができると思います。さらに、「やりたいと考える会社」がどれだけあって、「公園で会議をやる訳ないだろう」という意見がどれだけあるのかを知るために、まずはやってみることが必要だと思いました。人が来る前にそこでやってみることをしないと少し難しいのかなと思いました。

(小林委員長)

考える前にやってみても良い、1 回やってみて反応を見ないと我々も実感が持てないというところは結構大きいと思いますので、何か行動をまず起こす、コトを起こすということができると面白くなるように思いました。

会議が公園でできるでしょうか。竹下委員はいかがお考えですか。

(竹下委員)

職場と違って新しい発想が出てくるのかなという感じはします。たまにはそういう所で色々考えてやってみるというのも良いかもしれません。啓発の面でも良いアイデアですね。

(小林委員長)

商業といった観点から、公園の活用について頭に浮かんでいるアイデアはありますか。

(竹下委員)

人が集まる所には、商売が生まれると思いますので、まずは公園を利用する人を増やすということが必要かと思います。北公園はよく利用させていただいていまして、子どももテニス教室に通ったり、遊具も立派なものがあって良いですよ。正直この地域はテーマパーク

が遠いので、北公園とか運動公園はいわゆる田舎のテーマパークみたいな感じがしていますし、子どもを連れていくと喜びます。松江はイベントスペースがないので、北公園とか運動公園とかでイベントで活用できることをやった方が良いのではないかと感じています。ビジネスで出たい人も沢山いらっしゃると思いますので、イベントができるような環境に整備して活用していけたら良いのではないかと思います。

(小林委員)

大きめの公園については、今お話いただいたような活用する方法もできると思います。小さめの公園の活用については何かお考えをお持ちですか。地元密着で、商店の方がどれだけ使えるかというのが、1つのきっかけになると思っていますが、どうでしょうか。

(竹下委員)

何かコトを仕掛けないと進まないかなと思います。キッチンカーに来てもらうと良いかもしれません。ただ、どうやって周辺の人を集めるかが考えるポイントになるような気がします。先ほど、話があった小さな祭りみたいなものをどんどんやっていくというのも、1つの方法だと思います。今、交流の場が少なくなっているのです、実証実験としてやってみて広げていくということもできるのではないかと思います。

(小林委員)

きっかけづくりが、この会議の役割だと思います。これやってみようということがありましたら、関係者の皆様に動いて頂いてご協力を頂ければと思います。

やはり、大きい公園も、小さい公園も何かしら社会実験的にやってみるということが良いんですかね。

(竹下委員)

いつも公園を利用する際に、疑問に思うことがあります。公園によって遊具があつたりなかったりしますが、何か遊具を設置する基準はあるのでしょうか。小さい公園でもブランコがある場合もありますよね。

(渡部公園管理係長)

公園管理係の渡部と申します。最近、住宅開発によってできた団地に新たに公園を作っていただくことが多いです。その中で、遊具は1つ以上にしてください。と言っており、設置する遊具の種類については、役所と協議させていただいています。

また、市役所の方で管轄している公園の遊具は、遊具の配置計画に基づいて整備しています。遊具が古くなったら撤去したり、たくさん使われている遊具が古くなった場合は取り替えたりしています。これらの理由で、竹下委員がおっしゃられるように、小さな公園でも遊

具がある場合もありますし、少し広めの公園でも無い場合もございます。

(竹下委員)

地域の実情というか、遊具を利用する回数が多いとか少ないとかというのも、設置の基準の中で大切だと思います。あまり使われていないブランコが設置されている公園もありますし、案外広い公園でも遊具なんかいないという声もあるかもしれません。難しいかもしれませんが、もっと地元の意見を聞くことも必要なのかなと思ったりします。私の家の近くにも公園があって、よく子どもを連れていきます。そこには、遊具もありますが、走ったり、ボール遊びしたりするのが中心になっていて、必ずしも遊具が必要ではないのかなと思います。遊具があると管理も大変ですし、地元の人たちとの話合いも必要になるのかなと思います。遊具は大きな公園に集中的に設置しても良いのかなと思います。遊具で遊びたければ、大きな公園に行ったら良いですし、小学校にも鉄棒などの遊具はありますよね。極端な話ですが、予算のこともありますし、公園に必ず遊具がある必要性はないのかなとも感じたりします。

(小林委員長)

今回は資料に、子ども人口の分布もついております。例えば、「子どもが多い地域には遊具があった方が良い」とか、「この辺りは子どもが少ないから要らないかな」など状況を見て判断できると思います。資料を整理して、最終的には現場に行って地元の方から話を聞いて決めていくことになると思います。今後、遊具についても考えていく必要があると思います。ありがとうございました。

長岡委員、遊具の話が出ましたが何か意見はございませんでしょうか。

(長岡副委員長)

管理することを考えると、遊具は無い方がいいと思います。ただ、北公園の近くなどを走る際に公園を見ると、遊具には小さい子どもと親がたくさんいて、年齢が少し上の子になると、広い砂地でボール遊びしたりしているような光景をよく見ます。子どもが小さいうちはあった方が良いのかなと思います。子どもも自然と遊具に走っていくことが多いように思います。ただ、必ずしも遊具が無くても、走り回れる場所があれば良いかなとも思います。保育所などの近くの公園は、遊具でなくても園内で走り回れない時は、外に出て走り回れる広い場所があればすごく良いのではないかと思います。リアルな意見を得るには、保育所に直接聞けば良いと思います。利用頻度も多いので、公園の危険な箇所も全て把握していると思います。こういった公園にして欲しいという声も聞けるのかなと思いました。

また、トイレについて前から思っていたことがあります。公園のトイレがあって利用すると綺麗なのですが、そこに貼ってある注意書きがボロボロで、少し残念な感じがします。これは新しいものを貼り替えれば済む話かと思います。トイレが綺麗にしてあっても、それを

見るだけで、残念な気持ちになるので、そういった所から変えていただければありがたいなと思います。

また、北公園についてですが最優先で改善に取り組んでいくべき公園の 1 つかなと思っています。意見の中で草刈りとか出ていました。管理費用に限りはありますが、中心にあるような大きな公園は、草刈りをこまめにする必要があると思います。全ての公園を良い状態に保つために行政が単独でやっていくのは体力的にもコスト的にも厳しいと思います。公園愛護団さんがされているところもあると思いますが、どこの公園を愛護団が管理しているのか一般に生活していて分からないです。実際、我々のような公民館や地域の者からするとできること、やりたいこともあります。情報が無いのでやってはいけないのかなと思うところです。松江市さんから、そういう情報を出していただければ、やりたいと思っている人が動くかもしれませんし、管理を担ってもらえることができれば、コスト削減にもつながると思います。そうすると、他のことにお金が回せるのかなと思っています。

現地視察に行った時も小さい公園がたくさんありました。本当に利用している人がおられたら、残された方がいいと思いますが、無くても良いような公園もあるように思いました。管理が行き届かないのであれば、無くしてしまった良いのではないかと考えています。そのような所は早めに廃止することで、1 年分、2 年分の管理コストが減ってくるので、その分他に予算を回せると思います。早くできることは早めに行うことが必要だと思いました。また、明らかに管理できていないような公園もあったので、早めに手放しても良いと思いました。

今後、モデル地区を中心に進めていくことになると思います。第 2 回の協議会で現地を見て回った際に欠席の方もおられたと思います。私も視察してから少し時間が経ち、改めて地図を見たときに名前と場所だけ見ても、覚えていない公園もあります。今後、具体的にこの公園をどうしていくのかという話をするのであれば、その公園で会議をしても良いかもしれません。また、会議室で行うのであれば、議論する公園の写真を何パターンか写し出してもらってイメージがしやすいかなと思います。モデル地区内に 52 ヶ所も公園があって、全ての公園が分かる人は誰もいないと思いますし、大変かもしれませんが、今後その細かい部分を決めていく時に写真があれば、話し合いしやすいのではないかと思います。以上です。

(小林委員長)

ありがとうございます。確かに写真を見ながらお話するのは、重要かなと思います。今、色々な指摘を頂きました。保育所や地域との連携をしないと話が進めにくいというのが 1 つ。トイレの掲示物の張り替えについて 1 つ。他維持管理の仕方について、委託するという方法もあり、一旦その公園をなくしてみてその浮いたお金で新しいチャレンジをしていくというご提案をいただきました。お住まいの近くの既存の公園などで、新たにやってみたら良いことなどございませんでしょうか。

(長岡副委員)

近くにあまり公園が無いですね。子どもと歩いて行けるような範囲ではないので、車で北公園などに行きますね。ただ、駐車料金もかかりますし、子どもは行きたいんですが、なかなか気軽には行きにくい環境ですね。また、バスなどで行こうと思っても1時間に1本くらいしか便がないので、時間的に制約が大きいため結局行くとしたら車でいきますね。そういう意味で無料の大きな駐車場があると良いと思います。大きい公園は、広くて走り回ることもでき、遊具もあるし、使いやすく良いと思います。

(小林委員長)

今回の委員会では、まずは何かやってみようという議論になってきていますね。委員の皆さんの身近なところでこの公園はこう使えそうだというイメージがある方がいらっしゃったら、まずそこから具体的に考えてみるのも良いような気がします。委員の皆さんの中で、担当の公園を決めていただいて、アイデアを出していただくということもありかなと思います。

(長岡委員長)

本日の山下さんのご講演の中で豊田市の「できます看板」をご紹介いただきました。現地視察の際に、菅田公園で申請したらバーベキューができると話しをされた気がします。できることを住民が知らないのです、こういったことが出来ますという看板があれば、分かりやすく良いと思いますし、これはすぐにできるような取り組みだと思います。

大きな公園については、場所や設備、遊具などの情報について写真を用いてホームページで公表できると良いと思います。既に公表されていたらすみません。また、本日配布いただいた「てくてく散歩」の冊子とかすごく良いと思うので、このような取り組みを広げていければ利用する方も増えていくのではないかと思います。

(小林委員長)

確かに、看板の設置はすぐにできそうですね。今後相談しながらやっていけたら良いなと思います。

小谷委員、ご意見ございませんでしょうか。

(小谷委員)

失礼いたします。子どもたちを育てている方々を支援しているという立場で言いますと、今、子どもの数が大変少なくなっています。土日に北公園に行くことはあるかもしれませんが、地域の小さな公園に行くことはほとんど無いように思います。新しい住宅地には小さい公園が作ってありますけれども、日中子どもたちの姿をほとんど見ることは無いです。平成ニュータウンという団地がありますが、できた頃にはたくさん子どもがいて、遊んでいる様

子を目にしました。その後、4年も経たないうちに、ガラ空き状態になりました。そこには2つ公園がありますが、そのうち、農道沿いの公園は山の中の静かな公園ですが、動物や不審者が出てくるのではないかとというくらい静かな場所にあります。私が日曜日に散歩をした時に、ゴルフの素振りをしている方を見かけました。公園の使い方として、ゴルフの素振りは考えたことが無かったので、こういう使い方が出来るのかと思いました。治安が悪く、子どもが来て遊ぶにはふさわしくない公園だと思いますが、違った使い方もあるんだなと感じたところです。もう一つの公園は、治安は良く、新しい遊具もあることから子どもが遊んでいる姿をよく見ます。公園によって使い分けができれば良いなと思いました。

視点を変えて公園の使い方というものを考えていくことも必要なのかなと思いました。例えば、バーベキューができますよとか発信するのも良いですし、人が来て集まる空間ができれば、もっと有効に活用されていくのではないかと思います。歩いて15分位の身近な公園で遊べるというのが理想だと思いますが、実際のところは、保育所の近くに整備された公園がある方が機能的というのが実情だと思います。また、高齢者は緑地があると、ベンチがあったら座りたいな、話したいなという位のちょっとした場所があるといいなと思います。なかなか人が行かないと草が生えてしまいますので、それを整備しようとするのを考えていくべきなのかなとつくづく思います。

(小林委員長)

ありがとうございます。やはり同じ公園であっても子どもがいる時と、数十年経ったら時代によって利用法が変わるのは自然なことかもしれませんね。使っていいということを設定することができたら、人が集まって安全な賑わいのある公園になると思います。やはりソフトを我々がどういう風に設定するか、もしくは自由に設定してもらうなどソフトの問題になってくると思います。

(今井委員)

私の子どもは小学校に通っていますが、子どもの数が減ってきているというのを実感しています。公園の活用の仕方については、子どもの遊び方も変わってきていて、ゲームを家の中でやることも増えていると思うので、公園に行く機会が減ってきていることもあると思います。皆さんのお話を聞いたりして、私も遊具は必要ないのかもしれないと考えるようになりました。

先ほど、委員長さんから、公園でこういうことをやってみたいことがあればご意見をということでした。私はバスケットボールのイベントが出来れば良いなと思っています。子どもがバスケをやっていることもあっての意見ですが、3on3などやると盛り上がると思います。ただ、市内の公園を見ると、地面が砂の状態になっている所が多いので、やるとしたら整備が必要になりますので、すぐには難しいかもしれません。

(小林委員長)

公園でバスケットボールはどうしたらできますかね。晴れの日ならできますけど、雨が降ったら難しいですかね。

(今井委員)

最低限、ゴールがあればできると思います。子どもだったら、泥の方が案外良いかもしれませんね。

(小林委員長)

山下さんのお話でもありましたように、とにかくやってみないと喜んでもらえるか、我々は予測できないところがありますので、そういう意見をどんどん出して頂ければと思います。ちょっとやってみようと言を進めて行けたらいいと思います。

加瀬委員、いかがですか。

(加瀬委員)

やってみた方が良くと思います。公園の話をしていると、公園というワードも「公(おおやけ)」という字が入っている時点で固いイメージがあるような気がしてきました。むしろ、フリースペースという表現の方が良いかなと思いはじめました。

私は、ビジネスばかりやっているのでビジネスの点で考えるとコストのことを考えます。儲けさえすれば良いとは思いませんが、結局続けていくとお金はどうしても絡んでくるので、コストについて考えていくことも必要ではないかと思えます。管理費や人件費となると色々な部分が見えてしまいますので、どちらかという、皆で遊べる場所が欲しいなと思えます。前回も言いましたが、松江市は若い人が逃げていく傾向が強いように感じます。仮に県外の大学を出たとして、帰ってきて子育てや家族と過ごす際に何も遊ぶところが無いのは少し寂しい気がします。楽しいというのをもっと出していくべきだと思い、社会実験もさせていただいている所です。県外の人からすると、島根県といえば、出雲大社のイメージが強いです。じゃあ、松江市はというと、これというシンボルがないのかなと小さい頃から思っていました。松江は楽しいところだと若者が思ってくれたら、活性化されると思います。今、観光にスポットが当たっており、良いことだと思います。また、講演の中で、地元の人を楽しんでいる姿が見えたらそれが「観光」になるとありましたが、とても良い言葉だと思いました。それをおざなりにして、観光客を見込めるのかというご発言から、誰もが楽しめるようなことをするというのが大事なかなと思えました。可能な限り、この会があるうちに、具体的に1つでも何かを残して発信するというをやれたら良いなと思えました。

(小林委員長)

ありがとうございます。自分が当事者としてやらないと実感できないこともあると思

ます。どうしたら楽しめるだろうという基準で1回考えてみたら良いと思います。

皆さん本日は色々なご意見をいただきありがとうございます。具体的には、地域や公園間など様々な連携が必要ということです。また、最低限の公園の条件を備えつつ、社会実験として何かを試してみないとわからないのではないかということについて、皆さんのご意見としてあったかと思えます。

松江市の方もいきなりそう言われてもというところがあるかと思えます。今回の議論の中では早めに何かを試してみて、その感触を得ながら考えていきたいというのができると話が進めやすくなると思います。今後、ご相談させていただければと思います。

(渡部公園管理係長)

1つだけ、委員さんと共有したいことがございます。これは、公園の仕事に携わっている立場としてお話させていただくのですが、私たちが子どもであった時代は、愛護団とかではなく、親世代や祖父母世代が自然に集まって管理をしていた時代だったと思います。草が伸びていても、昆虫を捕まえたりして遊んで楽しかったなというイメージがあります。今、仕事をしている中での目標として、昔のように地域から愛してもらえるような公園に戻るといいなと思っています。自分達が綺麗にしたところをまた活用していくことで、より活性化されるのではないかと感じております。

もう1点、今日も話に出ましたがトイレの話です。トイレを管理していると、詰まったりする事案があります。何が原因かと言いますと、紙おむつを流されることや犬の糞を入れた袋をそのまま流すということによって起きることが多いです。紙オムツは吸水性が高いので、トイレに流されるとパンパンに膨らみ詰まりの原因となります。そういうことをしている人は一部の人のため、大半の人はその現状を聞くと驚かれると思います。トイレの詰まりの原因の半分以上が、本来は防げることです。作業にお金や手間暇がかかっているのが現状です。皆さんに公園を快適に使っていただくにはトイレも必要ですが、そういった管理面の部分で守って頂くような仕組みを考えながら協議して頂けたらより使いやすい公園になるのかなと思っています。これらを共有したくてお話しさせていただきました。引き続きよろしく申し上げます。

(小林委員長)

ありがとうございます。利活用を考える上で、地域の連携もありますが、地元の方がどう思われているかがないと、進めようがないですね。今、ご提案いただきました管理のことも含めまして、地元の方と話し合いながら進めたいと思います。

(山下氏)

皆さんの意見をお聞きして思ったことをお話しさせてください。

最後にお話があった公園のトイレの詰まりについてですが、恐らく松江市民の方がされ

るケースがほとんどかと思えます。それを十分わかった上で、市役所の方が話をされることに胸を打つものがありました。

非常にシンプルに言いますと、「ラジオ体操 大阪市」とインターネットで検索すると公園がたくさんできます。要は、「この場所に行くとラジオ体操をやっている人がいますよ」という情報です。一方で、「松江市 ラジオ体操」と検索するとほとんど何も出てこないのですが、「職場」という一言が出てきました。つまり、職場の社内で朝ラジオ体操をされているのかなと想像しております。逆に言いますと、可能性しかないくらい、公園を使っているんじゃないということが想像できました。そういう意味では、除草してほしいという言葉がありましたが、自分たちでやっても良いんです。松江城のお殿様から「屋外空間を使うべからず」といったお触れでもあったのかというくらい、松江市には、気風ができてきているように感じました。むしろ、ここまで屋外を使われていない気風について知りたくなりました。皆さん真面目だから何かを守ってらっしゃるかと思うんですけど、それが何なのかというのを徹底的に調べていただけたら嬉しいです。真面目な皆様なので、使いましょうということを発信されれば良いと思います。先ほど、長岡さんがおっしゃっていたように、誰がどんなことをしているかということをごんごん公開し共有されたらいいと思います。その人たちをお願いしたいのは、「常に場を開いて下さい、常にウェルカムでいて下さい、どんな方がきてもウェルカムでいて下さい」ということです。その上で、DIY(Do It Yourself)の精神を皆様が享受することだと思っています。今、広場や公園というのは不動産価値に連動しています。昔だったらマンションの広報に載っていた情報は、「小学校まで何分」「スーパーまで何分」という情報でした。今は広場や公園が載っています。それぐらい広場や公園によって、地価は変動するという証しです。ですが、資料内の地図を見た時に、分かるのは、人口動態と公園の立地がマッチしていないということです。本来ならば、公園の近くで人口が増えたり、若年層が増えたりするのが当然あるべきですが、そうはなっていない状況と云うことです。そのような中で、公園を無くしても良いのではないかという発言があったのはとても素晴らしいことだと思います。公園というのは、簡単に無くすことができず、市役所の人を頭を抱えています。そういう意味でこういう委員会が、公園を無くせば良いのではと言えることは、素晴らしいことだと思います。是非、議会にもあげていただければと思います。要するに、選択することが重要だと思います。人口減少社会の中で、税金だけで直して維持し続けることはできないのです。順番をどう付けていくかという議論がなされていくのが、このあり方検討会だと思います。観光地としてはすごく戦略的にやってらっしゃいます。実際、観光情報としての「松江市 トイレ」で検索すると、身障者の方に優しいトイレ情報は出てきます。そういったページは民間の方が作っています。観光地なので、そういったことは出来ています。子どもの遊び方が変化していると言われましたが、私は全然変わっていないと思います。遊び方は変わったけれど、人と会いたいのは人なんです。例えば、街中の広場では戦略的に Wi-Fi をしっかり作ります。そうすると、子どもたちはゲームをしています。5人の男の子が集まったら、それぞれ別々にゲームをしています。でもやってい

ることは一緒です。みんなでくっついて遊んでいます。別々のゲームをしているけれど、肌と肌はくっつけています。人は人といたいで、街中で別々のゲームをしているのだけど、一緒にくっついていたいです。そういったところからだんだんと遊び方は変わっていきます。子どもたちはゲームが大好きという訳ではなくゲームしかないだけです。外に行っては駄目、ボール遊びしては駄目と、駄目なことばかりになったためだと思います。これは大人の責任だと思います。先ほど、お話がありましたが、私も子どもの頃にたくさん木登りをしましたし、よく遊びました。そういう遊べる場所を是非作って頂きたいです。その優先順位をどうつけるかですが、活動があるところからしか始められないと思います。保育園や幼稚園が近くにある、団地の中にあるなどそれぞれに任せていくべきだと思います。有名な団地の中で、木が倒れたままの状態で放置されていました。それは管理する会社や団体があるため、住民が手を出せない状態なのです。住んでいる皆さんからすると、毎日見ている気になっているはずなので、各自で処理しても良いんですよとあってあげれば、住民達で処理すると思います。住民からすると、触っていいのか悪いのかがよく分からないので放置してしまいます。そういった状態をいかに無くしていくか、情報を開示していくのかだと思います。SNS というツールがある訳ですから、是非ご活用頂いて、活動のあるところから着手していただきたいです。アンケートの回答数が 0 件や 1 件の公園は使われていないということだと思います。水辺は観光として大事なポイントですし、人の歩ける距離は 500 メートルがギリギリだと言われているので、その範囲内に 3 つも 4 つも公園があればその中で、優先順位をつけてどの公園の整備から着手するのかを決めて頂ければ良いと思います。これを活発な活動している方々自身を選んで頂き、「できます看板」の内容をどうするかということから始めていただければと思います。まずは、公園でおしゃべりするところからが良いと思います。これなら、予算がなくともできると思います。楽しみにしています。ありがとうございました。

(小林委員長)

山下さんには色々な刺激を頂きまして、大変助かっています。ありがとうございます。

どの公園から手をつけるかということで、既に活動がある程度されている所から始めるのが良いだろうというご提案を頂きましたが、松江市さんの方で何か情報はお持ちでしょうか。

(公園緑地課 石本課長)

市内で約 400 箇所の公園があり、そのうち約 110 箇所の公園で愛護団が結成されています。村山委員の団体も含めて、草刈りなどをはじめ色々な活動をしていただいています。企業のボランティアさんも一部ありますが、100 箇所くらいは愛護団も市も全く何もしてない公園があります。今日お話にも出ましたが、もう無くしても良いかなと言われているような公園がこれに該当してくるのかなと思っています。公園愛護団の皆さんからは色々な情報

を頂いています。どのような公園にしたいかという前向きな意見交換ができると考えています。

(小林委員長)

お手元の資料から、今ほぼ活用されていないから廃止の候補として選定していただけるのかなと思います。

(公園緑地課 石本課長)

今回の資料の中には、どの公園に愛護団があるかは書いていませんでした。今回ご指摘いただきましたので、次回の資料には愛護団の有無も記載できればと考えています。

(小林委員長)

この委員会も回が進んできまして、具体的に何かを考えていこうということになり始めているところです。委員の皆さんもお時間がございましたら、やりたいこと案を練って頂いて、それを会議で出して頂いて議論をしていただけたら良いと思います。

来年度も学生を含めた提案を作ることは続けて行いたいと思っています。小さい公園につきましても、学生が卒論に取り込んでくれそうです。公園周辺の環境を調べて、連携次第ではこのようなことができそうだななど、学生レベルの調査研究になりますけれども、若い者の視点で見てもらうのも良いなと思っています。

また、公園の写真、映像資料を見ると考えが進むと思いますので、皆さんのアイデアや提案を頼りにしております。

時間が少し過ぎてしまいましたが、最後に今後の全体スケジュールを確認したいと思います。

(石倉公園整備係長)

資料の 22 ページをご覧ください。あり方協議会の今後のスケジュール案でございます。令和 5 年度も 4 回の開催を予定しております。次回、第 5 回につきましても、5 月に予定をしております。7 月に第 6 回を予定しています。9 月には提言書の取りまとめを行いまして、これに基づいた方針書を松江市で作成いたします。第 8 回を来年の 1 月頃に開催予定として、素案の確認をして頂き、パブリックコメントを経て方針書を策定する予定にしております。来年度も引き続きよろしく願いいたします。以上でございます。

(小林委員長)

ありがとうございます。それでは、本日の議題はこれで終了となります。

事務局より何か連絡事項等ございませんでしょうか。

(公園緑地課 石本課長)

皆さん、本日はありがとうございました。山下さんもありがとうございました。

我々も色々変わらないといけないなと思いました。まだまだ市役所はPRが下手だと思います。やっているつもりだけど、それが伝わっていないのは、やっていないことと同じということを改めて実感しました。まだまだ努力しないといけないと思いました。最近はSNSがありますし上手く活用していきたいと思います。我々はどうしてもHPに載せて終わってしまうことが多いです。もっと皆さんに伝わるようなPR方法が大事かなと思います。

また、愛護団の視点とか、我々が作っている計画については、もう少し丁寧に資料としてお見せしたいと思います。協議会の資料も事前にお送りさせていただくようにさせていただき、当日議論をしていただく形に変えていきたいと思いました。

次回の協議会は5月頃ということです。日程も資料も早めに準備させていただきたいと思います。

以上で、第4回公園のあり方協議会を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。